

組合的な「保護」を要求していた。革命において最も尖鋭だったのは、突に手工業者だった。サンキユロットの運動が実質的には、反資本主義的であるのに、これを新しい社会組織を目的とするプロレタリア攻勢とみた点に、ゲランの誤謬がある。

さらに革命の社会闘争において、賃銀に關する要求は第二義的であり、革命史として重要なのは、パンと物価統制の要求であった。また政治的にみても、労働者は行政機関の中では大した役割を果たしていない。最もデモクラティックな共和政の時期でさえも、精密に労働者的な政治思想の兆はみられない。要するに、フランス革命における労働者階級の役割は、サンキユロット的集団の中でさえ、第二義的なものに他ならない。

紙幅の制限のために詳細な註を省略したために、充分に意をつくしえなかつたが、リュードの云わんとする所は、ゲランのように、革命における下層民の力を過大に評価する見解に反対して、それが重要な役割を演じたにせよ、革命史全体からみれば、第二義的に止まるものであること、いろいろな歴史的制限

をもつてゐることを明らかにし、フランス革命における民衆運動に正しい位置づけを与えようとする点にある。——前川貞次郎——

### 李朝実録 第一冊

李朝実録、太祖実録から哲宗実録まで二五朝、二九種、一八九三卷、八八八冊の全実録は、昭和五十七年に京城大学法文学が写真版複製を印行したのであるが、印刷部数は三〇部にとどまつた。今国学習院東洋文化研究所において、半永久的継続事業として李朝実録普及版の印行を計画し、本年度分として、太祖実録より太宗実録までを五冊として発行し別に索引一冊を添えるということであつて、太祖実録一五巻が、已に第一冊として刊行された。李朝実録は朝鮮史研究の基本的文献であることはいうまでもないが、明・清の中国・満洲との関係、室町時代以降の日本・琉球との関係等の重要資料である。日本についていえば、ただに日鮮交渉の根本史料であるだけでなく、日本の政治・経済・文化・外国関係等についても、国内史料とは別種の貴重な史料を多く提供してくれる。例えば、京城

大学の複印によつて、室町時代の西日本の政治情勢、国内の経済の發達、ことに琉球並に南方諸地域との関係が、いかに明かにし得られたかは、われわれの記憶に新なるところである。李朝実録普及版の完成は、真に学界永遠の事業といふべきであるが、全部で約二百冊一五万頁にも達する尤大なものであり、切にその成功を期待する次第である。なお印刷部数は五百部に限定し、第一冊の購読者を登録し、その人々に限り第二冊以下の購読を受付けることになつてゐる（李朝実録第一冊、A5版、総クロス装、頒価一五〇〇円、申込先 東京都豊島区目白町一丁目 学習院東洋文化研究所）。

——小葉田 淳——